

皆で繋がりコロナ危機を乗り越ろう

フードバンク盛大に

3月7日中央区フードバンク(大阪平和委員会、新婦人の会(大阪平和委員会、大阪原水協、うたごえ協議会の4団体共催)が午後1時から3時まで妙徳寺さんで実施され240名が参加しました。

参加者は入門(入場前に受付で吉田事務局次長など3名の医療関係者による検温と消毒の後、番号札とどこにどの支援品が置かれているかがわかるマップを受け取りました(写真左)。

次いで参加者は入場後、直進してテント下のコーナー①(新婦人担当)で係から1家族用の食品基本セット(4品×米1kg レトルトカレー2パック、レンジで温めるごはん3つ、マグロ缶詰3つ)のバック、さらにアンケート用紙を受け取りました(左下写真)。

ついで次のテントに進み果物コーナー②でバナナとミカンを受け取り、お菓子コーナー③で好きなお菓子を一つずつ選び、



日用品コーナー④でマスク(子ども用もあり)、歯ブラシ、トイレトペーパーなど各自入用なものを一つずつ選びました。

生活相談室も設けられ、中央区の共産党から派遣された丸岡さんが「コロナ禍で英会話の仕事がなくなつた:」(26歳のフィリピン女性)など女性3人から生活相談を受けました。

最後に参加者は退場(退場)しアンケートを記入できる人は記入するか、係からの聞き取りでアンケートに答えました。

フードバンク開始前には10分間ほど、40人のボランティアに向かつて上羽事務局長が支援物品の概略やその渡し方について説明した後、西淀川で2回フードバンクを実施した経験のある中村玉枝副理事長が来場者への接し方や言葉遣いなど心配りについて注意しました。

アンケート回収係の女性会員は、「こんなにたくさん食料がもらえた:」とフィリピン女性にハグされたそうです。



フードバンクから見えてきたもの

フードバンクが開催されお手伝いをさせていただきました。子供も含め240人が来場、40人のボランティアが参加しました。

出口で男の子が「ぼくチョコレート大好き」と話しかけて来たので、「チョコレートもらった?」と聞くと「うん」と。アンケートを終えた赤ちゃんを抱いた女性が近寄ってきて「この子金属アレルギーなんですけどチョコレート好きなんです」「大丈夫ですか?」「チョコレート食べた後、薬を飲ませるんです」とやり取りをしました。あとで「その女性は夫の暴力で3人の子どもがいるが離婚していて、誰かに話を聞いてもらいたかったようだ」との報告がありました。今でもその男の子の顔が浮かんできます。連絡先を聞けばよかったと後悔しています。

ほかにも「お米は日持ちがするし、お米があつたらおかずは何でもいいので感謝です」「私は娘3人なので生理用品助かります」「こんなにたくさんありがとう」「また開催してほしい」という声が寄せられました。フィリピン人も多く「自分は介護の仕事をしているが、娘がコロナでバイトの仕事がなくなつた」と人懐っこく話をしてくれました。多くのフィリピン人が仕事が無くなったと訴えていました。ビラやラインでフード

バンクを知ったそうです。

フィリピンではアジア太平洋戦争で日本軍の残虐行為により多くの人が殺されました。また、マニラでは日本軍と米軍との激しい戦闘で市民10万人が犠牲になりました。第6代キリノ大統領は妻・次男・長女・三女を日本兵によって殺害されています。

それでも平和遺族会の事務局長が戦死したお父さんの足跡を訪ねる旅でフィリピンをたずねた時に親切にされ、フィリピンの国民は「許しの国民」と大変感動していたことを思い出しました。

フィリピンの人たちのためにほんの少しですが役に立てて良かったです。

生きにくい世の中にコロナが拍車をかけています。「この子は、この人は、この家族はどういのか」をつないでいけるのだろうか?と考えた時、支援も次につながる方法が必要だと思いました。

(天王寺「新婦人新聞3月号」S・Uさんの寄稿文より)



【アンケートの結果】

*121名より回収

①フードバンク情報を何で知ったか

○ビラ63名(52%)

○海寶寺ライン18名(15%)

②家族構成

○2人(41名) ○3人(29名)

○1人(20名)

③欲しいもの

○米8人 ○トイレットペーパー7人 ○お菓子6人 ○レトルト食品・缶詰5人、○洗剤4人 ○パン、生理用品、文具3人

○伝えたいこと

○60代の人「本当に助かった。米助かる」○53歳の外国人「シゴトクダサイ」○53歳のフィリピン人

「知り合いから連絡あった。色々助かる。お米があつたら、おかずは何でもいいける。娘コロナで仕事

なくなつた」○子ども2人連れた女性「皆さんの温かい気持ち伝わりました。助けていただき感謝します。ありがとうございます」

*アンケートによりますと、人気があつたものは米、果物(バナナと八朔)、子ども用マスクなどでした。

【カンパへのお礼】

この度のフードバンク実施に当たり、会員・読者はじめ多数の皆様より40万円を超えるカンパが寄せられ、多くの方々に沢山の食糧・物品を提供することができたことを報告し、カンパのお礼とさせていただきます。



感染防止を要請

コロナ感染が続く中、3月10日午後1時大阪平和委員会、和泉平和委員会、大阪安保の3団体5人が陸上自衛隊信太山駐屯地を訪れ、東直史中部方面隊第3師団司令に対し、「自衛隊内コロナ感染症拡大を受けて『3密』となる訓練中止を求め」要請行動を行いました。

この行動では、日本共産党の早乙女実和泉市議員(和泉平和委員会)が「自衛隊内で感染者が発生した場合、自衛隊として自治体に直ちに連絡・公表すること」「この間の自衛隊内の感染予防策を明らかにすること」「集団行動では『3密』は避けられない。コロナ禍のなかでは、いっさいの訓練を中止すること」「日米地位協定により日本側の検疫を免れている米軍との共同訓練を中止すること」など6項目にわたる要請書を読み上げ、同駐屯地の別府晴樹広報室長に手交しました。

この後、上羽治雄大阪平和委員会事務局長が6項目へのコメントを要求しましたが、同広報



室長は「感染者は2人増えて17人。クラスターは出ていません。申し入れ事項については時間をかけて検討・対応します」とのみ答えるにとどまりました。

要請行動参加者は、「自衛隊と米軍との感染症の関連には注視しなければならぬ。その中で感染者が2人増えたことを明らかにさせたことは成果と言える」と言いながら駐屯地を後にしました。

女性委員会学校開校

大阪平和委員会は3月28日女性委員会学校(Wゼミ)を開催しました。府役員を対象に「マスカケ食」方式でケーキとコーヒを楽しみながら、2つの話題提供と交流の2時間。男性2人を含む8人が参加しました。

1つ目は、平和委員会青年学生部所属で新婦人中央支部事務局長の柿木知子さんが「女性&運動」2020年4月号を解説。「ジェンダー〇×クイズ」でおおいに盛り上がりました。

2つ目は、片方副理事長が、日本平和女性委員会が作成中の「平和委ジェンダー問題Q&A案」を紹介。「なぜ平和委員会がジェンダー問題に取り組むのか」、「ジェンダー問題に取り組もうとすると男女の分断を招いてしまう気がする」などの想定の問題かけに対し、ファイ



デルファイア宣言や『女性&運動』20年4月号にある多様性、共生で解消されない女性差別を参考に意見交流しました。

意見交流の中では、「女子中学生が歩いていたら、前から20代くらいの男性が避けずに、2人の間をわざと体当たりのような形でぶつかって通っていくのを見た。こういうことが女性の身近に起こっているのだから胸が痛くなった」(40代男性)などの発言も。「普段言えないことが言える場を作ってもらい、スツとした」、「あつという間の2時間だった。このテーマならずーっとしゃべっていられた」、「無条件に楽しかった」などの感想が寄せられました。

(片方真佐子副会長 記)

3月沖縄連帯行動

大阪平和委員会は、3月15日正午から小一時間にわたり近鉄上本町駅前2カ月ぶりに沖縄連帯行動を16人の参加で実施しました。大阪のうたごえ協議会の仲間6人が三線などの楽器演奏に合わせ「ジュゴンの海を返

せ」など沖縄の歌を元気に披露する中、大阪平和委員会の仲間が道行く人たちに「沖縄・辺野古新基地建設―遺骨が眠る土砂を使うな」と訴えるチラシを配りながら「辺野古新基地建設中止と普天間基地撤去を求める署名」への協力を訴えました。

また上羽大阪平和委員会事務局長とうたごえ協議会の立川孝信さんが、マイクを通して「菅政権は沖縄戦の犠牲者の遺骨を含む土砂を重機で掘り出し米国のための基地建設に投入し美しい海を破壊しようとしている」

「菅政権は辺野古基地建設に2・5兆円もの無駄なお金を使おうとしている。こんな無駄遣いはやめてコロナ危機で苦闘する医療機関や国民生活への支援に回せ」と訴えました。

春めいてきたこともあり、25人が署名版の前で立ち止まり、署名に応じられました。この日は卒業式で休みであったのか男子中学生が「沖縄に行ったことがありません。沖縄のことは気になります」と言いながら、署名してくれる姿にはさすがに



【5月の行事案内】

- 1日(土) メーデー 9:30 扇町公園
- 芸人9条の会 13:00 東成区民センター
- 2日(日) メッセージコンサート 14:30 ドーンセンター
- 3日(祝) おおさか総がかり行動 14:00 扇町公園
- 6日(木) 6・9行動 12:00 近鉄上本町駅前
- 12日(水) 常任理事会 18:00
- 13日(木) ノーモアヒバクシャ近畿訴訟 13:15 高裁74号
- 14日(金) 沖縄連帯行動 12:00 近鉄上本町駅前
- 22日(土) 豊中「平和のつどい」14:00 すてっぷホール
- 26日(水) 組織委員会 18:30
- 30日(日) うたごえ協議会・発効記念の集い 14:00 東成区民センター 千円

―今回のパンデミックで学ぶべきことは何でしょうか。
ダイヤモンド 一国が危機を乗り越える上で重要なのがナショナル・アイデンティティです。今回の危機で私たちが学ぶべきことがあるとすれば、それはこの危機を通して人類がグローバル・アイデンティティを築ける可能性が出てきたということです。地球のどこにいても人類全体が運命をともにしていることが自明になりましたからね。新型コロナが人類全体の問題だと気づけば、気候変動や資源の枯渇、格差の拡大、核兵器のリスクが人類全体の問題だと気づき、人類全体で課題に取り組める可能性が出てきます。

ジャレド・ダイヤモンド―危機を乗り越えられる国、乗り越えられない国(「新しい世界」世界の賢人16人が語る未来 クーリエ・ジャパン編 講談社現代新書)